

学番	中等2	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校
----	-----	----------------

平成28年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<p>保護者と地域の期待に応え、豊かな人間性と創造力を身につけ、国際的な視野をもち、社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。</p> <p>そのために、「学校は学ぶところ」という基盤に立ち、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。</p> <p>(1) 自立して生きるための基礎となる学力 (2) 他者と協力して生きるための豊かな心 (3) 自己実現のために必要な気力及び体力</p>	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標〈つきたい力〉
<p>家庭学習時間の目標達成率は、前期課程 46.4%、後期課程 22.3%であった。</p> <p>キャリア教育として、講演会、職場体験、社会研修旅行等を実施した。</p>	<p>学力の伸長及びキャリア教育の充実 (中高一貫教育を活かし、優れた専門性の基礎づくり)</p>	<p>学ぶ目的や働く意義の理解を通し、自分の将来に目標をもち、主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>〈キャリアプランニング能力〉</p>
<p>大学等進学率 83.6%、達成率 95.3%、国公立大学進学 32.9%、難関大学進学率 1.4%であった。</p>	<p>全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着</p>	<p>自分の希望進路の実現を見据え、課題を見つけ、分析し、計画を立てて解決する力を育成する。</p> <p>〈課題対応能力〉</p>
<p>生徒指導、いじめ不登校対策委員会を中心に、いじめの疑いに係る情報交換を密にし、いじめの未然防止、早期発見、対応に努めた。不登校事案に対しては、校内の支援体制を活用し、関係機関や家庭と連携して支援を行った。</p> <p>LFP（リーダーシップ・フォロアーシップ・プロジェクト）を8回実施した。</p>	<p>公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 (高い倫理性の基礎づくり)</p>	<p>自分の役割を理解し、他者と協力して、積極的によりよい集団や社会を形成しようとする力を育成する。</p> <p>〈人間関係形成・社会形成能力〉</p>
<p>前期課程では、陸上競技部、特設水泳部が北信越大会に、吹奏楽部が西関東アンサンブルコンテストに、それぞれ出場した。</p> <p>後期課程では、囲碁・将棋部、日本文化部（百人一首）が全国大会に、北信越大会に特設水泳部、卓球部が出場した。</p>	<p>心身鍛錬及び健康管理の充実（自己実現に必要な気力・体力づくり）</p>	<p>・自分の個性や特徴を理解し、向上心をもって主体的に行動する力や、自分の考えや感情を律し、あきらめずに努力する力を育成する。</p> <p>〈自己理解・自己管理能力〉</p>
<p>志願児童は75人であった。</p> <p>学校説明会は校外で2回、校内で2回実施し、小学校への訪問説明会は20校で実施した。</p>	<p>地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実</p>	<p>・地域との交流や校外活動を通して、社会や母校に貢献しようとする意欲を高める。</p> <p>〈地域連携・社会貢献〉</p>

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を見通して、「総合的な学習の時間」や「学校行事」の系統的な指導を行う。 ・LFプロジェクトにおいて、話し合い活動、発表活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善が必要と思われる行事について見直しを行い、改善案を提案する。 ・LFプロジェクトで「海外研修旅行」をテーマとした発表活動を行う。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事の準備、運営を通して、勤労観や職業意識を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭、球技大会など各種行事において、委員会、係の仕事に責任持って行うことで、実際の社会で働くことを疑似体験させ、全体のために働くことを学ばせる。 	B
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を見通した進路指導計画のもと、進路学習や進路講演会などを実施し、生徒が将来のビジョンを持てるようにする。 ・生徒に適切な進路情報を提示する。 ・学習習慣を定着させ、学力の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成に関する講演などを発達段階に応じて計画的に行う。また、年間指導計画を随時、見直しをして、より効果的な進路指導計画を作成する。 ・学年便りなどを通して、進路情報を提供する。 ・家庭学習時間の調査を行い、学年部と連携して、学習時間の少ない生徒の指導などを行う。 	B
	1 学年	<ol style="list-style-type: none"> 1 勤労観、職業観育成のための体験活動の充実 2 主体的に学ぶ力の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「大学見学」「職場見学」「いきいきゲーム」を実施する。 2 学活、道徳、総合的な学習の時間を系統的に計画し「学ぶ」ことについて考えを深める。 	A
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来の目標を達成するため、日常の家庭学習の習慣を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の未解消の生徒を対象に、放課後に課題解消会を行う。 ・月末までに課題を提出できないと思われる生徒に教育相談を行うとともに、その保護者に連絡して指導の協力を依頼する。 	B
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・SATに向けて「三点固定」指導を軸に基本的な生活習慣を身につけさせ、学習習慣の確立を図る。 ・学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結びつけ、明確な将来像を描かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活記録表」を用いて一週間の計画を立てさせ、達成状況をチェックする。 ・「職業レディネステスト」や「大学訪問」を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。 ・「立志式」や立志の作文により、現段階での将来像や夢を具体的に考えさせる。 	A
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・将来の進路の参考となるよう、進路講演会を実施する。 ・意識啓発講演会を実施し、学びに対しての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活記録表」をチェックし、生徒に家庭学習時間の目標達成を促す。 ・課題提出率が90%以上となるよう、生徒に繰り返し粘り強く指導する。 ・講演会は生徒の意識を啓発する内容となるよう、計画・実施を行う。講演会実施後に教員が内容等について評価する。 	A
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を明確にさせ、志望校・志望分野を決定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会研修旅行における企業訪問や大学訪問など一連の活動を通じて、職業観の育成や卒業後の進路目標の設定を目指す。 ・自己分析や小論文、グループディスカッションを通じて、自身の適性や興味関心など自己を深く理解させるようにする。 	A
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアに関した意識を高める。 ・家庭学習時間の目標達成率50%以上。 ・課題提出率90%以上。 ・進路を明確にさせ、志望校・志望分野を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい勤労意識を持たせるため、学年通信などで情報提供を行う。 ・課題をこまめにチェックし、未提出のものに提出を呼びかける。 ・面談を通じ、学習時間の不足している生徒には、アドバイスをし、より充実した学習が行えるよう励ます。 	C
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの合格率が80%以上となる。 ・課題の提出率が90%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストでは、漢字・古文単語・漢文句形を中心に基礎学力の定着を目指す。 ・再テスト等を実施し、全生徒の基礎学力定着を目指す。 ・テキストの問題を中心にした課題を提示し、読解力をつける。 	B
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの授業への関心・意欲を高め、学ぶ目的を認識させ、主体的に学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指示・発問の明確化」に努め生徒の理解や関心を高めるようにする。 ・生徒の理解が捗るように配色・ノートを意識した板書を行う。 	A
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・朝テストの合格率が80%以上となる。 ・課題の提出率が90%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝テストでは、基礎・基本を中心とした問題とし、定着を図る。 ・学力に応じた課題を提示する。 ・個別に面談等で対応する。 	B
	理科	<p>【前期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を向上させるような授業展開を行い、理科好きの生徒を増やす。 ・後期課程の各科目担当の教員による出前講座や後期課程の体験授業を通じ、後期課程に繋がる学習を意識させる。 <p>【前・後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配色・ノートを意識した板書を行い、理解しやすい、分かりやすい授業を心がける。 	<p>【前期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間25以上の実験を行い、思考力、推察力を高め、意欲向上に繋げる。 ・出前講座の実施や、後期課程の授業への体験参加を実施する。 <p>【前・後期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の授業をそれぞれ見学し、教科内での研修を行う。 	B
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの合格率が80%以上となる。 ・課題提出率が90%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝テストの内容を工夫し、各学年に合ったものにする。 ・学力に応じた課題を提示する。 ・個別に面談等で対応する。 ・必要であれば、週末課題や週間課題も設定する。 ・(前期課程では)毎時間、練習テストを行う。 	A	
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康や体力に関心を持ち、その増進や向上を目指して意欲的に学ぶ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果をもとに、各自の課題を把握させる。 ・学習内容が、健康の増進や体力の向上にどのように関連しているかを説明しながら授業を進める。 	B	

重点目標	具体的目標		具体的方策		評価
全員の進路希望実現	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中(夏・冬)の登校学習を実施し、生徒の学習への取組強化を図る。 生徒の学力を高めるより良い年間行事計画を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年部・教科と連携を図り、生徒にとって効果的な学習が行えるように実施計画を立てる。 年間行事計画の作成時に、各教科や分掌でSATの時期や考査の意義付けを検討してもらい、考査や行事、大会等の時期を適切に判断して提案する。 	A	B
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のための教育相談を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校生活アンケートを実施し、それに基づいた教育相談を行い、進路実現のために適切な支援を行う。 	A	
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を実施し、調査結果を基に適切な進路指導を行う。 土曜講座、課外学習、学習合宿、PC教室などを実施し、生徒の学力を向上させる。 模擬試験を実施し、生徒の学力向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や模試の結果などを分析し、生徒の個別面談などを実施する。 土曜講座、課外学習、学習合宿、PC教室などを計画的に実施し、生徒の学力を向上させる。 模擬試験後に学習到達度や状況を分析し、教科、進路指導に活用する。 	B	
	1 学年	1 授業以外の学習時間の目標達成率(平日2時間、休日3時間) 2 課題提出率100% 3 第3回学力推移調査受験者70%	1 ①「7限学習会」を実施する。 学習習慣の形成と家庭学習の目星をつける。 ②毎日、学習課題一覧表を出す。 “Challenge Now!”に学習目安時間を入れる。 2 ①放課後の課題解消会を計画的に実施する。 ②長期休業後の課題未提出が増えないよう、中間チェック日を設ける。 3 事前の説明を充実し、対策講座を実施する。	A	
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路希望を実現するため、各種考査で安定した結果を収めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任から授業態度の情報を収集し、学級指導に生かす。 考査2週間前から家庭学習計画表を配付し、計画的に学習できるようにする。 	A	
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の「Challenge Now!」の提出を徹底させ、学力の定着を図る。 SAT、SACを通して、前期課程の学習内容を確実に定着させ、後期課程の学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解消のための放課後学習会を随時行う。 学年だよりを定期的に発行して学校の情報を家庭に提供するとともに、家庭訪問や面談・PTA活動等を計画的に行う。面談等の内容を吟味し、タイミングを逃さずに支援を行う。 「前期課程修了論文」に取り組みせ、広い見地からの意見を収集し分析した上で、自分なりの主張をまとめる力を育成する。 	A	
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習の充実や文理選択の決定を通じて生徒の進路意識を明確にさせ、志望校決定に結びつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 志望校・志望分野決定者が100%となるよう生徒に指導する。 「進研模試」で偏差値58以上が35人以上、偏差値50が50人以上になることを目指し、事前・事後の指導を行う。 	A	
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい生活習慣を確立させ、平日4時間、休日5時間の家庭学習を習慣化させる。 計画的な学習を行わせ、進路希望実現のための学力の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「3点固定」指導を軸に指導する。 生徒と保護者対象の進路講演会を年2回行う。 模擬試験の事前事後指導の充実を図る。 	C	
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験における国公立大学受験率90%以上。 国公立大学進学率50%以上。 難関大学進学率10%以上。 進路講演会を保護者向け、生徒向けに向け開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業の内容をアップさせるよう各教科で努力していく。 容易に私立大学受験にシフトしないよう面談を通じ、指導していく。 講演会を企画し実施していく。 補習や個人指導を充実させ、難関大学を志望する生徒の希望をかなえる。 	D	
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 学力推移調査において、全国偏差値54以上が50%以上となる【前期課程】 進研模試において、全国偏差値58以上が50%以上となる。【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験・学力推移終了後、各授業で復習を行う。 日々の授業において、語句・古語などの予習を促す。 読書習慣をつける。 	B	
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の50%がSAT本試験で達成、再試験後に、合計80%の生徒が達成する。【前期課程】 5年進研模試で偏差値58以上の生徒が50%以上 センター試験で7割以上得点した生徒が50%以上【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> 各テスト後の「振り返り」を確実に行わせ、理解できていない事項の定着をはかる。 前期課程では、単元ごとに小テストを実施し、教科書内容の定着をはかる。 後期課程では、進学者向けの補習を計画的に実施し、模試や大学入試問題を活用し、国公立大学入試に対応できる学力の養成と意識づくりをはかる。 	C	
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> 学力推移調査において、全国偏差値54以上が50%以上となる【前期課程】 進研模試において、全国偏差値58以上が50%以上となる。【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの模試において、①過去問での対策→②受験→③振り返り→④結果分析→⑤解説・解き直しを行う。 定期考査において、①テスト勉強→②受験→③結果分析→④振り返りを行う。 	B	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。 基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り学習や再テストを実施し、躓きの早期発見を行う。 成績不振者には補習や基礎の反復学習を行う。 	A	
英語科	<ul style="list-style-type: none"> NR Tにおいて、全国偏差値58以上が50%以上となる。【前期課程】 進研模試において、全国偏差値54以上が50%以上となる。【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> Can doの計画を活かし、年間の細かい計画を立てる。 授業をお互いに公開し、質の高い授業ができるように心がける。 定期考査の内容を吟味し、適切なものを出题する。 模擬試験の事前、事後指導をしっかり行う。 	B		
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立てた目標を達成するために工夫して活動し、技能や体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習内容や用具・場の工夫など、いくつかの練習方法を取り入れながら授業を進める。 単元によっては、自由練習の時間を設定し、個人やグループの課題に応じた練習を工夫させる。 	B		

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・L Fプロジェクトの活動を充実させ、リーダーやフォロアーの重要性と役割認識を高める。 ・思いやりの心やボランティア精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・L Fプロジェクトで、全員がリーダーとフォロアーになる機会をつくり、リーダーシップ、フォロアーシップの意識を定着させる。 ・L Fプロジェクトの活動内容に流れをつくり、L F班の絆をより深める活動にする。 ・L Fプロジェクトで地域貢献活動を実施する。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気な挨拶が自然に飛び交う学校づくりを目指す。 ・小さなトラブルでもいじめに発展しないよう、常に情報収集と情報共有に努め、組織的に早期の問題解決を図る。 ・登校しにくくなっている生徒の情報を常に共有し、欠席しがちな生徒に適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に自然な挨拶ができるよう、生徒が中心になって「挨拶運動」を定期的に行う。 ・学年、分掌など各部会で定期的に情報交換する。情報交換シートなどを活用して、その情報を学校全体で共有し問題解決に当たる。 ・いじめ・不登校対策委員会を中心とした支援体制を確実に機能させる。各部と連携を取りながら個別支援計画を作成し、支援に当たる。 	B
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・S A Cや職場体験学習などの集団活動において、規律を守ることや挨拶に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S A Cや職場体験学習などの事前指導や活動中の指導を適切に行う。 	B
	1 学年	<ol style="list-style-type: none"> 1 いじめ見逃しゼロ 2 不登校生徒数の減少 3 挨拶・清掃の励行 4 自主的な時間管理 5 L F P（異学年集団活動）の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1, 2 ①「週の振り返り」を毎週実施する。 ②①を教科担当に回覧し、情報を共有し、複数の目で生徒の様子を見取る。 ③家庭との連絡を密にする。欠席1日目で保護者と話し、連続2日目で本人と話し、連続3日目で家庭訪問を行う。 ④学校生活アンケートを活用し、年に3回、学校生活についての教育相談を行う。 3, 4 ①学級・学年の係、委員会を動かす。 ②泊行事で、挨拶・清掃の励行を徹底する。 5 「6年生にインタビュー」「職場体験報告会」「合唱コンクール中間発表会」など、異学年と積極的に活動を行う。 	A
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事に責任を持って自主的に取り組ませるとともに、仲間と協力し合う姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の意義や理想的な取組の姿を事前に指導することで、行動に意味付けをする。 ・仲間や集団の良い点を生徒に紹介することで、目指す姿を気付かせ、称賛の気持ちを拍手で表現させる。 	B
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任を持って取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活アンケート」等を活用しながら教育相談を充実させる。 ・明るく元気なあいさつや返事、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。 	B
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。 ・教室内の整理整頓・清掃活動の充実を通して、生徒の公共心を培う。 ・服装・身だしなみ指導、規則の遵守を徹底する。 ・カナダ研修旅行において、積極的に交流を行い、国際理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への指導や教員の見取り等で、いじめを防止する。「生徒アンケート」も実施する。 ・清掃を徹底するとともに、各クラスに整美係を設け、教室内の美化に努めさせる。 ・L H RやS H Rの時間を利用し、規則の遵守について指導する。・カナダ研修において、交流を働きかける。 	B
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。 ・社会の諸問題に対して意識を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と副任が連携して個別面談を行うなど、学年団として教育相談の充実を図る。 ・小論文やグループディスカッションを行なわせ、自ら考える機会を与える。 	C
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学年・学級づくりや集団づくりを行う。 ・挨拶や清掃をきちんと行うよう、日頃より細かく指導する。 ・人権教育を通じ、人権意識を高める。 ・行事に積極的に参加し、クラス意識、学年意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を詳細に分析し、早めに面接を行う。 ・行事への積極的参加を促す。 	C
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文・古文・漢文の各教材を通して、公共心・規範意識の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組ませる。意見発表やグループ討議など、生徒が考えて活動する時間を増やす。 	A
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通し、公共心の育成を図るとともに、人権尊重の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の授業で、公共心についての考えさせるとともに、人権問題にも触れ、現代社会についての考察を深めるとともに、社会の構成員として、自己のあるべき姿について考えさせる。 	B
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始終了時刻を厳守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかり立て、見通しをもって授業を行う。 	A
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始終了時刻を厳守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかり立て、見通しをもって授業を行う。 	A
	英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始と終了の時刻を厳守する。 ・生徒がペアワークやグループワークを協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかり立て、板書の書き方、説明の仕方、生徒同士 	A

		的に行うよう指導する。	の活動を工夫する。	
	保健体育科	・グループでの役割を果たしたり教え合い学習をしたりするなど、仲間と協力して活動する態度を育てる。	・グループ活動を取り入れ、協力し合う場を設定する。 ・仲間と協力しなければ成り立たない活動を取り入れる。	A

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
心身鍛練及び健康管理の充実	教務部	・チャレンジウォークで、生徒に達成感を持たせる。 ・チャレンジウォークを円滑に運営し、生徒の完歩率を向上させる。	・チャレンジウォークのコースについて、検討し、適切なコースづくりを行う。 ・事前準備やスタッフの打合せを綿密に行い、当日の業務に支障がないようにする。 ・生徒への事前指導を充実させる。	A
	生徒指導部	・自己実現に向け、主体的に生活習慣の見直しを図り、生活リズムの確立と共に健康管理能力を高める。	・放課後活動（部活動、社会体育活動等）に積極的に参加させ、体力の向上を推進する。 ・学級担任は、生活記録等を活用し、自分に合った生活リズムが作れるよう指導する。 ・生活習慣の重要性を学ばせるために、発達段階に応じた保健講座を実施する。	C
	1 学年	1 部活動加入率 80%以上 2 保健講座の充実 3 チャレンジ・ウォークでの全員完歩 4 集団で運動する機会の設定	1 部活動入部希望調査の前に、部活動について説明する機会を複数回もつ。 2 養護教諭と連携し、年間行事予定に計画を入れる。 3 学年一つの集団で歩き、ペースを調整しながら全員ほぼ一斉にゴールする。 4 「7限運動会」を3回実施する。2学年にも協力をお願いし、合同実施をする。	B
	2 学年	・自分の心身の健康管理を確実にし、欠席や遅刻、早退をしないようにさせる。	・生活記録ノートを利用して生活リズムを確認し、個別指導に生かす。 ・欠席や遅刻、早退の多い生徒に対して教育相談を行うとともに、その保護者と連携して改善を図る。	A
	3 学年	・文武両道を目指し、積極的に部活動に参加する生徒を育成する。 ・自己の生活を定期的に振り返らせる。	・チャレンジウォークで「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。 ・部活動への積極的な参加を呼びかけ、後期課程まで継続させる。	B
	4 学年	・知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。	・部活動に加入している生徒は継続できるよう、HR等で励ます。 ・保育や体育に興味を持たせ、道徳について考える機会を設ける。	B
	5 学年	・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。	・「生活記録表」の記載や学校での様子を配り、指導が必要な生徒を早期に発見するよう努め、面談等を通じて指導を行う。	A
	6 学年	・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。	・「生活記録表」の点検を行い、生徒の実態を把握する。 ・気になる生徒への対応（質問や面談）を速やかに行う。 ・定期的に面談を行い、生徒の精神面のサポートを行う。	B
	国語科	・いろいろな教材を通して人間を理解する。	・現代文分野、古典分野の教材を通して人間というものを理解し、そこから自己や他者を理解する力を身に付ける。	A
	社会科	・課題を欠かさず提出させる。	・原則として毎週各学年ともに課題を課し、毎週期日を守り提出することを徹底させ、自己管理能力や規律性を身に付けさせる。	A
	数学科	・生徒が 48 分集中して授業を受ける。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	A
	理科	・座学と実験のメリハリをつけ、場面に応じた振る舞いができるようにさせる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	B
	英語科	・生徒が授業に集中し、自発的に発言する姿勢を育てる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	A
	保健体育科	・継続した運動の効果を理解し、毎時間のウォーミングアップで定められた距離を走り通す態度を育てる。	・ウォーミングアップの重要性や、継続することの効果を繰り返し指導する。 ・しっかり走っている生徒を称賛したり、そうでない生徒を激励したりと、声掛けをする。	C

重点目標	具体的目標		具体的方策		評価
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	教務部	・学校ホームページの掲載内容を充実させる。	・学校のPRとして効果的な行事などの情報を、迅速に掲載する。 ・定期的に更新する。	B	A
	生徒指導部	・学校行事を通して、学校の取組を地域の人や児童に発信する。	・体育祭、文化祭などの学校行事において、地域の人に参加したり、学校活動を紹介したりする機会を設け、学校に対して一層関心を持ってもらうよう努める。	A	
	進路指導部	・授業公開を実施し、保護者や地域の方々に授業を見てもらう。	・授業アンケートを実施し、その結果を参考にして、授業公開を実施する。	A	
	1 学年	1 学校説明会の充実 2 地域での挨拶の励行 3 交通マナー向上の啓発	1 翔洋祭（文化祭）での学校説明会に協力する。 学校説明、学校見学、質疑応答 2 道徳の時間を活用し、「あいさつ」や「地域」について扱う。 3 年度当初に「交通安全教室」を学年で実施する。	A	
	2 学年	・地域と関わる行事や学習に対して、意欲的に取り組む姿勢を養う。	・主に、次の行事や学習に対して意欲的に取り組めるよう、事前指導を行う。 LFPでの社会貢献活動、体育祭、職場体験学習 学年PTA主催の福祉体験、翔洋祭 福祉施設訪問、修学旅行	B	
	3 学年	・生徒が充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。	・活動の記録や生徒の感想を掲載した学年だよりを、毎週末に発行する。	B	
	4 学年	・学年だよりを週1回発行する。	・学年だよりを、毎週発行できるように努める。	A	
	5 学年	・学年だよりを週1回発行する。	・学年だよりの内容は、生徒の学校での様子について、保護者にお知らせするものとし、随時進路情報も掲載する。	A	
	6 学年	・保護者の方と連絡を取り合い、充実した教育活動が行えるよう工夫する。	・保護者の方との懇親会をセンター試験の1ヶ月前あたりに開催する。 ・学年通信を通じ、学校の教育活動や教育内容が、保護者に伝わるよう、努力する。	A	
	国語科	・地域の方と適切なコミュニケーションを図ることができる言語能力を育成する。	・敬語の使用など、状況に応じて適切な言葉使いができるようにする。	A	
	社会科	・作文コンクールなどに積極的に応募する。	・3年生は中学生の「税に関する作文」に全員応募する。 ・3年生は人権に関する作文にできるだけ多くの者に応募させる。 ・4年生は「税に関する高校生の作文」に全員応募する。 ・社会のしくみを知り、社会貢献のあり方について考えさせる。それぞれについて事前指導を行う。	A	
	数学科	・数学検定の受験者がのべ30人以上となる。 ・数学検定2級以上に5名以上が合格する。	・過去問を1、2年生全員に配付し、動機付けを行う。 ・受験者対象に過去問を配付し個別の指導を行う。	B	
	理科	・理科を通じて、地域に学校をPRする。	・「青少年のための科学の祭典」（市教育センター主催）や科学研究発表会・作品展などに参加をする。	A	
	英語科	・英語検定を生徒全員が受験する。 ・英語検定の合格率が50%以上となる。 ・英語検定で、団体の努力賞を受賞する。 ・行事等で、カナダ研修についての発表を行う。	・過去問を全員に配付し、動機付けを行う。 ・受験者対象に個別の補習を行う。 ・2次試験（面接）対策の指導も行う。 ・翔洋祭で、カナダ研修旅行の成果を発表する。 ・保護者に対して、カナダ研修旅行の報告をする。	B	
保健体育科	・長距離走の単元で、地域の人々に頑張って走る姿を示せるようにする。	・校地周辺にコースを設定し、生徒の走る姿を地域の人々の目に触れさせる。 ・生徒の頑張って走る姿が、地域の人々に元気を与えることにつながることを指導する。	C		

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上に向け、アクティブラーニングの推進をテーマとした校内研修を実施するとともに、電子黒板の設置により教室のICT環境を充実させた。 ・難関大を目指す6年生に対し、個別指導の担当職員を明確にする「チューター制」を導入することで上位層の進路実現を支援した。 ・「かしわざき学」の実施に向け推進体制を整え、オープニングプログラムを成功させることで生徒への動機づけとすることができた。教員間でも新たな取組に向けた意欲的な動きが見られるようになった。 	総合評価
		B